

# 黒ぼく畑における白ネギ夏秋～冬どり新品種‘項羽一本太’

## 1 新しい品種の内容

### (1) 背景・目的

白ネギは鳥取県下全域で栽培されており、夏秋どり作型においては高温期に萎凋病や軟腐病の発生、秋冬どり作型においては台風や積雪による葉折れ等により減収が問題となることがある。そこで、黒ぼく土壌における夏秋～冬どり作型において品種比較試験を行った結果、夏越し性に優れ、収量性が高く、台風、積雪の被害を受けにくい有望品種‘項羽一本太’（トーホク種苗）を選定した。



### (2) 品種‘項羽一本太’の要約

- 1) 夏秋どり、秋冬どり作型において夏越し時の欠株が少なく、夏越し性に優れる。
- 2) 草姿は‘夏扇パワー’よりコンパクトで‘関羽一本太’と同程度～ややコンパクトであるため、台風、積雪時の被害が少ない。
- 3) 葉色は‘関羽一本太’と同等で、‘夏扇パワー’より濃い。
- 4) 根の張りが強く、湿害に強い傾向である。
- 5) 収量性は‘関羽一本太’よりも優れており、2L、L 率が高く、収穫調製の作業性に優れる。
- 6) 秋冬どり作型では襟部の緩みが少なく、在圃性に優れる。



## 2 試験成果の概要

### (1) 秋冬どり作型（2020年）

3年間‘項羽一本太’を含む合計16品種を供試し、4月下旬定植、11月～12月収穫の秋冬どり作型で品種比較試験を実施した。‘項羽一本太’は他品種と比較して、夏越し後の生存株率は高かった。葉色は‘関羽一本太’（対照、トーホク種苗）と同等で‘夏扇パワー’（サカタのタネ）より濃かった。草丈は‘夏扇パワー’よりコンパクトで‘関羽一本太’と同等であり、積雪による葉折れが‘夏扇パワー’よりも程度が低く、‘関羽一本太’と同程度であった（表1、図1）。また、降雨（70.5mm、園芸試験場内データ参照）によって‘夏扇パワー’の株が傾いたのに対して、‘項羽一本太’及び‘関羽一本太’の株は傾きが認められなかった（データ省略）。降雨後の生育の回復も早く、根の張りが強く、湿害に強い傾向が認められた（達観）。収量は最も多収で2L、L率が高かった。襟部の締まりは優れ、収穫開始の1ヶ月後においても優れ、高い在圃性が認められた（表2）。

### (2) 夏秋どり作型（2023年）

2023年に‘項羽一本太’を含む10品種を供試し、3月中旬定植、9月中～下旬収穫の夏秋どり作型で品種比較試験を実施した。本年は7～8月の日平均気温の平均28℃、日最高気温は平均32℃越え（倉吉气象台データ参照）と過酷な猛暑となり、最終土寄せ（8月24日）を行うまでは欠株等は見られなかったが、土寄せ後は多くの株が腐敗した（主に軟腐病、褐色腐敗病）。

‘項羽一本太’は他品種と比較して、生存株率、可販率ともに最も高く、その結果収量は最も高かった。2L、L率が高く、収穫調製の作業性に優れた。襟部の締まりは9月12日収穫時には‘夏扇パワー’より優れ‘関羽一本太’と同程度であったが、9月27日には‘夏扇パワー’と同程度で、‘関羽一本太’よりも劣る傾向であった（表3）。このことから、夏秋どり作型では‘関羽一本太’よりも在圃性に劣り、収穫遅れによって襟部が緩む可能性があるため注意が必要であると考えられた。

表1 【秋冬どり作型】生存株率及び収穫時の生育（2020年）

品種	生存株率		収穫時の生育（11月10日）							12月22日
	9月14日 (%)	11月10日 (%)	生重 (g/本)	草丈 (cm)	葉長 (cm)	葉鞘長 (cm)	葉鞘径 (cm)	葉枚数 (枚)	葉色	積雪による 葉折れ程度
夏扇パワー	97.4	90.4	261.9	105.4	60.4	39.1	19.2	6.0	3	3.3
関羽一本太	97.4	91.5	259.6	101.8	58.9	37.7	19.4	6.1	4	1.3
項羽一本太	99.1	94.8	249.8	101.8	58.2	39.7	19.6	6.8	4	1.7

注) 生存株率：6月30日の本数を100として算出した

葉色（達観）：夏扇パワーを基準（3）として1淡～5濃とした

葉折れ程度（達観）：1良（葉が折れていない）～5悪（新葉まで折れている）

表2 【秋冬どり作型】収量調査（2020年）

品種	11月10日上物収量						襟部の縮まり	
	本数 (本/a)	重量 (kg/a)	箱数 (箱/a)	調整重 (g/本)	2L率 (%)	L率 (%)	11月10日	12月8日
夏扇パワー	3,419	471.0	169.2	137.9	36.3	48.1	2.8	2.4
関羽一本太	3,269	464.9	155.8	131.7	33.3	43.8	3.5	3.3
項羽一本太	3,504	515.4	182.0	147.9	43.3	47.6	4.6	4.4



L4 (76~100g) L (101~150g) 2L (151~230g)

注) 2L (L) 率：2L規格 (L規格) の本数が収穫本数に占める割合

襟部の縮まり（達観）：1悪い～5良い

表3 【夏秋どり作型】生存株率及び収量調査（2023年）

品種	9月12日		9月12日上物収量						襟部の縮まり	
	生存株率 (%)	可販率 (%)	本数 (本/a)	重量 (kg/a)	調整重 (g/本)	箱数 (箱/a)	2L率 (%)	L率 (%)	9月12日	9月27日
夏扇パワー	77.2	47.4	1,500	192.5	128.3	53.0	25.0	58.3	3.0	2.5
関羽一本太	83.8	59.0	1,917	253.9	132.5	69.6	24.6	66.7	3.6	3.2
項羽一本太	92.3	73.1	2,375	349.2	147.0	100.0	54.4	42.1	3.5	2.5

注) 生存株率は定植時の本数に対する収穫本数の割合、可販率は定植時の本数に対する上物本数の割合

襟部の縮まり（達観）：1悪い～5良い



図1 積雪後の草姿（2020年12月22日）

左：‘項羽一本太’

右：‘夏扇パワー’と同程度の葉折れの品種

### 3 普及の対象及び注意事項

(1) 普及の対象 鳥取県白ネギ産地

(2) 注意事項

- 1) 夏秋どり作型では高温時に襟部が緩みやすいので収穫遅れに注意が必要である。
- 2) 本試験は黒ぼく土壌における試験結果であり、他の土壌については別途検討が必要である。
- 3) 積雪時の葉折れは少ないが、ハウスバンド等による葉折れ対策は必要である。

### 4 試験担当者

野菜研究室 研究員 麻木聖也  
室長 白岩裕隆